

つながる

平成24年 1月17日 No.9

十日町市教育委員会学校教育課



強みを見つけ生かす工夫を

小中一貫教育推進係
嘱託指導主事 平野久美

明けましておめでとうございます。昨年は東日本大震災を始め心痛む出来事が多くありましたが、今年こそは良い年になりますようにと願っています。本年もよろしくお願いいたします。

さて、昨年11月末に、「小中一貫教育つくば市大会」に参加しました。つくば市は平成20年度から研究校を指定して試行を始め、平成24年度には全市15中学校区で小中一貫教育を本格的に始めます。全中学校区のそれぞれが「〇〇学園」と名前をつけ、地域・PTAの連携も推進の基準の視点にあげ、保護者・地域と一体感ある取組を進めています。平成24年度に小中一貫校が1つできる予定ですが、それ以外は、既存の中学校区での連携型です。連携型がほとんどの当市が、今後の取組を注目したい実践地の1つであると感じました。

つくば市の柿沼教育長は、「小中一貫教育で教育日本一をめざす」と高い志をもった話をされました。小中一貫教育を推進するために設立した「つくば市総合教育研究所」の建物のすばらしさに、さすが財政力の豊かな市だと感じ入りました。300以上の研究施設を擁する学園都市、世界100か国以上の人々が生活する国際都市でもあります。

こういった環境は当市と大きく異なりますが、「強みを生かす」発想を大切にすることで道が開けると思っています。「SWOT分析」という企業の経営戦略手法があります。企業が自社の強み（Strengths）弱み（Weaknesses）と自社の置かれた経営環境の機会（Opportunities）脅威（Threats）を整理・分析し、適切な戦略を立案するための手法です。

先日行われた「モデル中学校区合同発表会」のアンケートで、「1中学校3小学校は、日程調整が大変だとは思いますが、組織化し、それを機能させれば多様な視点から考えることができるし、多様な人材が活用できるという点で大きな強みであると感じた。」という感想に出会い、嬉しくなりました。そうです。この発想です。実態を分析し、強みとしての財産を開発して活用する戦略です。遠距離という弱みではなく、多様性という強みに着目するしなやかさ、たくましさで敬服しました。

雪を大変さという視点だけではなく、利雪（雪を利用する）、親雪（雪に親しむ）という発想の転換をして頑張っている十日町の地で、小中一貫教育にもそんな力が発揮されることを楽しみにしています。

なお、今号は、地元十日町にお住まいで上越教育大学准教授の松沢要一先生からご寄稿いただいています。先生は、小中一貫教育基本計画策定委員会や小中一貫教育の在り方検討委員会の委員長を歴任され、本年度から小中一貫教育連絡協議会の会長をされている方です。十日町市の小中一貫教育にかける熱い思いが伝わってくるご提案です。

小中一貫教育について思うこと

十日町市小中一貫教育連絡協議会長 松沢 要一



十日町市小中一貫教育連絡協議会に参加させていただき、委員の皆様や事務局の方々から様々なご意見を聞かせていただいております。そうした中で、十日町市の小中一貫教育について考えてみたことを以下の3点からまとめてみました。

1 多様な視点からの実態分析

中学校区の児童生徒の実態を十日町市が目指す姿に照らし合わせたとき、どのような位置にあるかを様々な視点から分析する必要があります。その一例として「学校充実度」を考えてみます。これは教育社会学を専攻している舞田敏彦氏が著書『47都道府県の子どもたち』の中で言及しています。子どもたちが学校での生活をどのようなものとして受け止めているかを全国学力・学習状況調査をもとに判断しているものです。氏によると、「学校で友達に会うのは楽しいか」、「学校で好きな授業はあるか」、「学校で楽しみにしている活動はあるか」の設問に対して最も強い肯定の回答を寄せた新潟県の割合は、全国で45位とのこと。これら3つの設問に対する中学校区の回答割合も実態分析の対象になると考えます。

2 一貫して取り組む柱を何にするか

一貫して取り組む柱を何にするかは重要な問題です。教育課題が山積しているからと言って、それらすべてに対して一貫して取り組むことが効果的かは疑問の残るところです。実態を構造的にとらえ、根幹が見えてくると、一貫して取り組むべき柱が定まります。柱を例えば「生徒指導の三機能」にした場合、「自己存在感を与えること」、「共感的な人間関係を育成すること」、「自己決定の場を与えること」を9年間の全教育課程に具体的に位置づけ、展開していくことになります。

3 全教職員の参画と検証

全教職員がPDCAサイクルに参画する組織をつくるのが大切です。また、異動で転入される教職員が一貫教育のデザインを理解し、それに対応した教育活動を展開できるようにしていくことが重要です。そして、実態分析、一貫して取り組む柱、全教職員の参画、成果と課題等のそれぞれを検証していくことも計画に入れておくべきことと考えます。

「モデル中学校区合同発表会」が行われました！

1月6日（金）に「モデル中学校区合同発表会」が開催されました。本年度から小中一貫教育を試行している4つのモデル中学校区が、これまでの取組について発表しました。併せて、三条市立第三中学校の小中一貫教育推進リーダーである田村和弘主幹教諭から三条市立第三中学校区の取組に関する講話をいただきました。



新年早々の会ではありましたが、70名近い参会者で会場は熱気にあふれました。モデル中学校区の取組や連携型の先進地である三条市立第三中学校区の取組に、参会者は示唆に富んだ多くの学びを得ました。

ご多用の中、準備を進めて発表いただいたモデル中学校区の皆さんや田村先生、始業式前にもかかわらず研修に参加された皆さん、ありがとうございました。この学びが、市内各中学校区の今後の小中一貫教育の推進に大きく役立つことと確信しています。

参加者アンケートの感想から

<モデル中学校区の発表について>

- ・中学校区ごとに取組のねらいを明確にしているところが良かった。職員の意識を高めたり、共通理解をすることが何よりも大事だと感じた。
- ・各モデル地区の取組の様子や特徴が分かりやすく説明されていた。組織体制づくりのご苦労がよく伝わってきた。今後の取組に生かしていきたい。
- ・お忙しい中たくさんの資料を用意いただき感謝している。発表のプランやプログラムをデータとして活用できるようにしてもらおうとありがたい。
- ・共に育てるという意識の大切さが伝わってきた。
- ・小中乗り入れ授業の様々な方法を知ることができて良かった。

<講話について>

- ・ビジョンと実態把握、体制づくりとその根拠が明確で、本当に分かりやすい話であり参考になった。
- ・何のために小中・小小連携をしているのかがはっきり伝わった。
- ・「学びの継続」を合言葉に学力にポイントが絞られた取組で、参考になった。
- ・小小の連携に着目した点を、複数の小学校をもつ私どもの中学校区の取組に生かしていきたいと感じた。
- ・「データから分かること→手立て→結果」という発表が分かりやすかった。こういった取組を自分たちもしていく必要性を感じた。
- ・確実な実態分析の重要性、小小連携の有用性ということを特に学んだ。
- ・時間が短かったのが残念。もっとゆっくり実践についてお聞きしたかった。

※このほかにも、いただいたたくさんの感想や意見を今後の取組に生かしていきたいと考えています。
アンケートにご記入いただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。



モデル中学校区2月の活動予定



日時	<内容>	会 場	見 どころ
○3日(金) 13:30~15:00	<ジャンボ若葉班活動>	下条小学校 下条中学校 下条公民館	<ul style="list-style-type: none"> 本年度3回目の小中一貫の縦割り班活動です。2回の実践を踏まえ、さらに小中学生がかかわり合いを深められる内容としました。調理・実験工作・ゲーム等、児童生徒が主体的に活動に取り組みます。
○21日(火) 14:00~14:50 6年(外国語活動) 15:00~15:50 6年(交流活動)	<乗り入れ授業・交流活動>	松代中学校 <small>イングリッシュルーム</small> 生徒会室・体育館	<ul style="list-style-type: none"> 「体験活動Ⅱ」として位置付け、保護者の学習参観も予定しています。中学校区の3つの小学6年生と一緒に外国語活動や中学生との交流活動・部活動を体験します。
○27日(月) 15:30~	<教職員研修会>	中里中学校 視聴覚室	<ul style="list-style-type: none"> 学区の教職員が今年度の中里地区小中一貫教育に関する取組について振り返り、成果と課題を確認するとともに、次年度の取組や具体的な事業について共通理解を図ります。
○27日(月) 15:00~16:30 教育活動PJ会議 健やかな体育成PJ会議		松代小学校 奴奈川小学校	<ul style="list-style-type: none"> 12月に行ったプロジェクト会議において検討された本年度の活動の反省と来年度の事業提案を踏まえ、平成24度の計画づくりをします。
○29日(水) 学力向上PJ会議 豊かな心育成PJ会議	<プロジェクト会議>	孟地小学校 松代中学校	

※PJ→プロジェクト